

休日当番医など(6月1日~7月15日)

地域医療課 ☎27-8572

休日 当番医 9時~17時

6月	4日(日)	なかにし内科クリニック	平北白土	21-8181
		磐城中央病院	小名浜南富岡	53-3511
		呉羽総合病院	錦町	63-2181
		比佐医院	常磐湯本町	43-2313
	11日(日)	かしま病院	鹿島町下蔵持	58-8010
		矢吹病院	佐糠町	63-1818
		いわき湯本病院	常磐湯本町	42-3188
	18日(日)	山口医院	平作町	24-1811
		佐々木内科胃腸科	小名浜南君ヶ塚町	73-0345
		櫛田病院	植田町	63-3202
		常磐病院	常磐上湯長谷町	81-5522
	25日(日)	小名浜生協病院	小名浜岡小名	53-4374
こうじま慈愛病院		錦町	63-5141	
かとう内科クリニック		常磐西郷町	72-0072	
7月	2日(日)	山口医院	平作町	24-1811
		中村病院	小名浜大原	53-3141
		呉羽総合病院	錦町	63-2181
	9日(日)	さかもと内科胃腸科クリニック	常磐関船町	72-2022
		かしまら婦人科クリニック	泉玉露	56-2289
		矢吹病院	佐糠町	63-1818
		いわき湯本病院	常磐湯本町	42-3188

※症状によっては、専門外となる場合がありますので、不明な場合は、当番医療機関へお問い合わせください。

日曜 小児専門当番医 9時~12時

6月	4日	相原小児科医院	内郷御厩町	26-5551
	11日	こどもクリニックすずき	泉町	56-6336
	18日	福田小児科医院	平下荒川	22-4272
7月	2日	おおはらこどもクリニック	東田町	63-0001
	9日	福田小児科医院	平下荒川	22-4272

※変更となる場合がありますので、事前に当番医療機関または消防テレホンガイド(☎23-0119)へお問い合わせください。市ホームページでも公開していますので、ご覧ください。

休日 診療協力医

【内科】
山口医院(平作町)
9時~17時 ☎24-1811

6月 4日

須田医院(小島町)
8時30分~12時 ☎27-6060

6月 11日、25日

7月 9日

【泌尿器科】
常磐病院(常磐上湯長谷町)
9時~15時 ☎81-5522

6月 4日、11日、25日

7月 2日、9日

【眼科】
中央台たなか眼科(中央台高久)
9時~14時 ☎29-1722

6月 4日、11日、18日、25日

7月 2日、9日

※この他にも休日に診療している医療機関がありますので、あらかじめかかりつけの医療機関などで確かめてください。
※診療の受け付けは、診療終了時間の30分前までとなります。

休日夜間急病診療所【内科・小児科】
総合保健福祉センター隣 ☎27-1208
平日: 20時~23時 土曜日: 19時~23時
日曜日: 14時~18時、19時~23時
祝日: 9時~13時、14時~18時、19時~23時

※患者・医療従事者間における感染拡大防止のため、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザの検査は実施していません。

休日救急歯科診療所
総合保健福祉センター内 ☎27-8620
日曜日、祝日: 9時~12時、13時~16時
(受付終了時間15時30分)

県子ども救急
電話相談 ☎024-521-3790または
#8000(プッシュ回線・携帯電話)
毎日 19時~翌朝8時

県救急電話
相談 ☎024-524-3020または
#7119(プッシュ回線・携帯電話)
毎日 24時間対応

●かかりつけ医を持ちまじょう

●「ハニ」取寄せやまじょう

●救急車は適正に利用しまじょう

市民の健康教室

提供・問い合わせ
(-社いわき市医師会 ☎38-4201)



带状疱疹

带状疱疹はチクチクした痛みにつき、体の片側に小さな水ぶくれがある赤い発疹が帯状に現れる病気です。

原因は带状疱疹ヘルペスウイルスという水ぼうそうのウイルスです。子供の頃にかかる水ぼうそうのウイルスは、治った後も脊髄から出ている神経の根元に潜むようになります。加齢やストレス、過労などで免疫が下がると、潜んでいたウイルスが増えて発症するのが带状疱疹です。神経をつ

形成外科医療録③

まぶたと形成外科

標榜診療科の中では新しい形成外科でも、他科と同様に細分化される傾向となっています。近年、「まぶた」つまり眼瞼を中心とする分野は専門性が進んで、「眼形成外科」や「眼窩外科」といった呼称で専門外来を設置する医療機関があります。この分野は主に形成外科と眼科の境界領域となります。眼球以外の解剖構造を外眼部といい、眼瞼・結膜・眼窩・涙道が含まれます。文字通り、眼球そのものの外側で、眼球を保護するうえでの大事な組織で微細な構造となっています。

眼瞼の疾患では、眼瞼下垂症や睫毛内反症などが代表的です。涙道の疾患は外傷や腫瘍などがあり、再建が重要となります。前回紹介した眼窩(眼窩底)骨折や鼻骨骨折などはスポーツ選手で起きやすく、複視などの合併症が残ると選手活動にも影響します。甲状腺疾患による眼症状(眼球突出など)もこの分野の治療対象です。また、眼球摘出後の義眼を装着するための義眼床を形成することも、形成外科医の仕事の範囲に入ります。

かかりつけ医の紹介・相談は、医師会事務局へ(ホームページURL <https://www.iwaki.or.jp>)

たってウイルスが増えるので、神経の分布に沿った帯状の発疹ができるのです。

免疫が低下する高齢者、糖尿病やがんがある人、免疫を下げる薬を使っている人に発症しやすいです。

症状は主に痛みですが、顔の場合は目や耳の神経に炎症を起こし、角膜炎や結膜炎、難聴や耳鳴り、顔面神経まひなどを起こすことがあります。

治療は抗ウイルス剤や鎮痛剤を使用します。ほとんどは合併症なく治りますが、一部で痛みが長期間残ってしまうことがあります。治療を早く始めるほど合併症が少なくなると言われています。

発症予防には、50歳以上であればワクチンが使えます。2種類のワクチンがありますが、最近できたワクチンは90%以上の予防効果があり、免疫抑制剤や抗リウマチ薬、抗がん剤などを使っても使用できます。コロナ禍以降、带状疱疹が増えていることもあり、接種する人は増えています。

けんこうQ&A 循環器科③

「心不全」を理解し、防ぎ、守り、共に生きるために知っておくべきこと

Q 高血圧症を指摘され、投薬が始まりました。心不全にならないようにするために気を付けることを教えてください。

A 高血圧は心不全に至る原因として、とても重要な病気の一つです。あなたのように高血圧症と診断され、適切な管理を受けている患者さんの比率がどの程度かご存じですか?日本では概ね高血圧症の半数は自分が高血圧症だと自覚しておらず、高血圧症と診断された人の半数しか医師に相談しておらず、残念なことに医師に相談した高血圧症の半数しか治療目標を達成できていないと推定されています。自身の血圧がどのような状態にあるのかをチェックする習慣を身に着けると良いでしょう(家庭血圧測定法)。市販されている上腕式(二の腕で測るタイプ)の血圧計を購入し、朝起きて2時間以内に、1~2分椅子に腰かけ安静にして2回連続で測定します。トイレを我慢したり、足を組んだり、お話をしながら測定してはいけません。夜も同様に決まった時間に2回連続測定します。この1日4回の測定値を記録し、ご自身の血圧がどの程度であるかを、医師に報告できるようにしておきましょう。